

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
① 学生確保の見通し	1
ア. 定員充足の見込み	1
イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	2
ウ. 学生納付金の設定の考え方	6
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	6
(2) 人材需要の動向等社会の要請	7
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	7
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ..	8

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

[入学定員設定の考え方]

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻(以下「本専攻」という)は、本学 61 人、マヒドン大学 58 人、合計 119 人の専任教員を配置し、入学定員は 3 人(収容定員 12 人)とする。

本専攻の母体となる東京医科歯科大学(以下「本学」という)大学院医歯学総合研究科医歯学専攻の専任教員は 369 人(2018 年 5 月 1 日現在)であり、入学定員は 181 人である。本専攻の入学定員は、養成する人材像に合わせた十分な教育・研究の機会を学生に提供する観点から、本学とマヒドン大学が協議のうえ設定している。

本専攻は設置母体である専攻に比して小規模であり、本専攻設置の目的を達成するに十分な教育研究環境、体制を整えている。

[定員充足の見込み]

本専攻の入学定員(3 人)に対して、長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる見通しを明らかにするため、2018 年 12 月から 2019 年 1 月にかけて、本学及びマヒドン大学の外科分野において、本専攻の受験対象者にアンケート調査(資料1)を実施した。なお、回答者は、調査票添付の本専攻の構想概要(資料2)を予め通読のうえ回答している(資料3)。

調査の結果、本専攻について、「興味・関心がある」と回答した者は日本及びタイ王国を合わせて 26 人、「少し興味・関心がある」と回答した者は 14 人であった。また、「出願したい」と回答した者は 11 人、「出願を検討したい」と回答した者は 20 人であった。

本専攻の入学定員は 3 人、収容定員は 12 人であることを考えると、本専攻の定員を充足するだけの受験対象者が十分に確保できることが明らかになった。

本調査結果の詳細は次項「イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」で述べる。

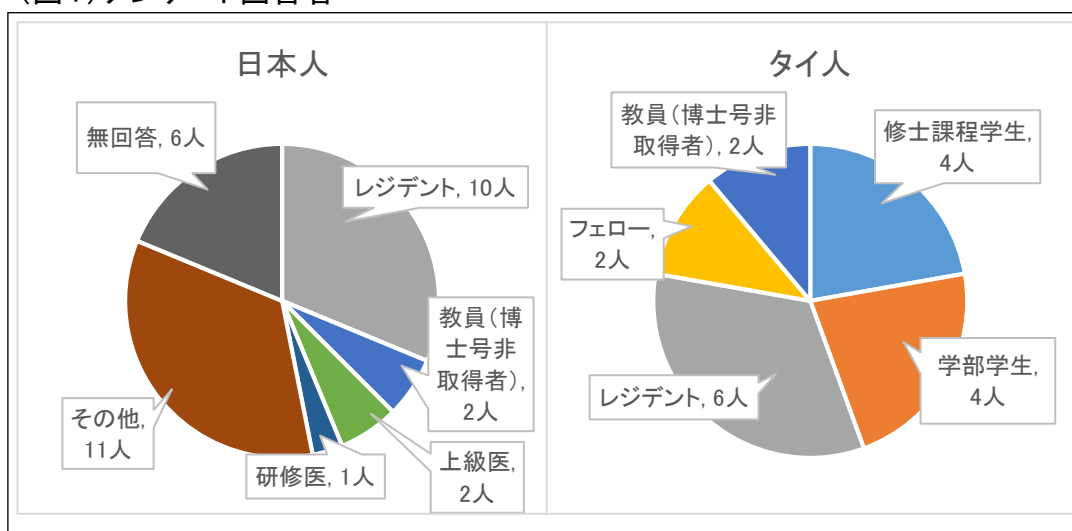
イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

【定員充足の見込みについて調査するアンケート】

前述のとおり、本専攻の入学定員 3 人に対して、長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる見通しを明らかにするため、本専攻の概要説明を行ったうえ、本専攻の受験対象者へアンケート調査を実施した。

本調査では、本学及びマヒドン大学、並びに関連病院の合計 50 人(日本人 32 人、タイ人 18 人)から回答を得た。全回答者の内訳は以下のとおりである(図1)。

(図1)アンケート回答者



<アンケート回答結果とその分析>

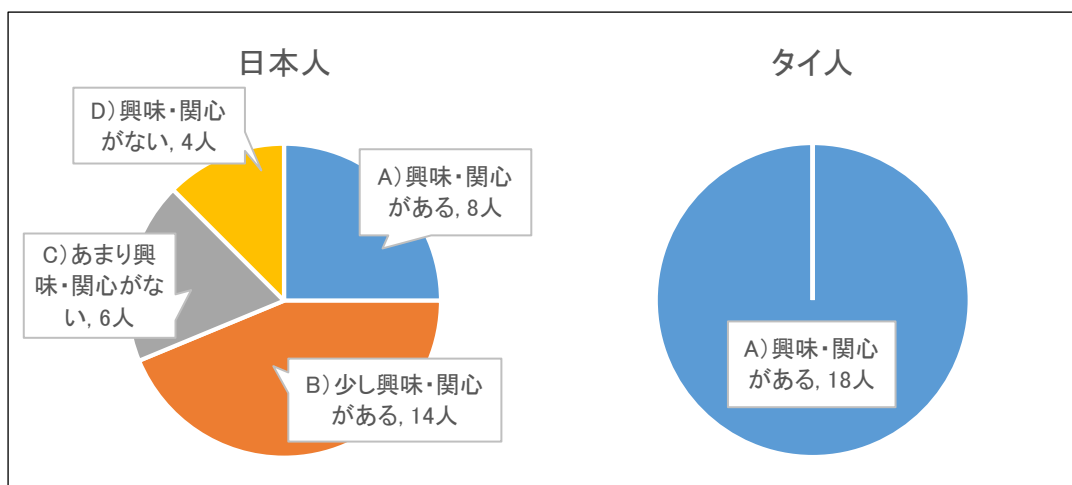
(1) 本専攻への興味・関心

本専攻に「興味・関心がある」と回答した者は 26 人、「少し興味・関心がある」と回答した者は 14 人であった(図2)。アンケート回答者の 80%が本専攻に興味・関心があることを示しており、入学定員 3 名の確保は十分可能と推量できる。

また、日本人とタイ人における回答者を比較すると、タイ人における回答者の方が、興味・関心を持つ者の割合が高いことが分かる。これは、「設置の趣旨等を記載した書類(4~5ページ)」でも言及したが、タイ王国では経済発展の早い段階で高齢化が始まり、それに伴う疾病構造の変化、医療技術の向上に対応できる医師の育成が急がれていることから、高度人材の育成のための高等教育制度の拡充が求められており(※)、両大学の医療技術を融合した本専攻への関心が高かったものと推察される。

※参考:2017年02月20日大和総研グループ「タイ:早すぎた高齢化」

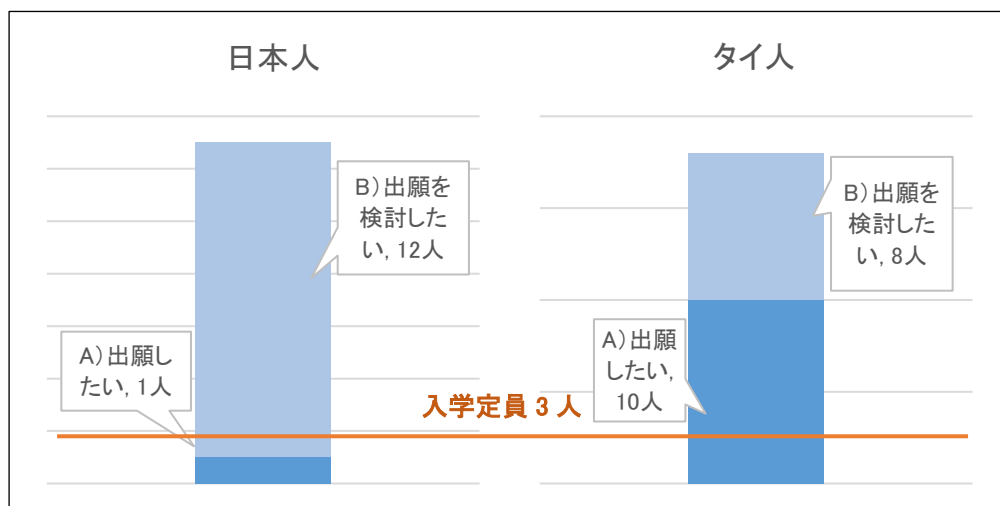
(図2) アンケート回答者の本専攻への興味・関心



(2) 本専攻へ今後の出願の意志

本専攻に「出願したい」と回答した者は 11 人、「出願を検討したい」と回答した者は 20 人であった(図3)。この結果は、本専攻の入学定員 3 人に対して十分な候補者がいることを表しており、今後も継続して情報を提供することで、毎年一定数の出願が見込まれる。

(図3) アンケート回答者の出願の意志



(3) 本専攻へ出願を希望する理由(複数回答した者がいた)

「出願したい」または「出願を検討したい」と回答した者が出願を希望する理由は、以下のとおりであり、JDP 設置の趣旨に合致した学生が潜在的に存在することが窺える。

- ・ カリキュラムに魅力を感じるから: 10 人
- ・ 2つの大学の学位が取得できるから: 9 人
- ・ 2つの大学の強みを活用しているから: 12 人

- ・ 本専攻を修了すれば自身のキャリアに役立つから： 2人

(4) キャリアゴール(将来像)

回答者が描く将来像については、「がんの治療に精通した外科分野で活躍できることのできる臨床医」が最も多く21人、次いで「社会のニーズに即応しうる高度な研究能力を有する医科学者」が15人、「我が国やタイ王国のみならず ASEAN 地域の医学・医療を牽引する指導者」が7人、そのほか臨床分野で貢献できる医師などの回答があった。(表1)

いずれの将来像も本専攻が養成を目指している超高齢社会に対応した疾病、特にがん治療のような集学的治療に携わる高度専門医療人に合致していることから、定員3名を上回る応募が十分に期待できる。

(表1) 目指す将来像 (複数選択した者がいた)

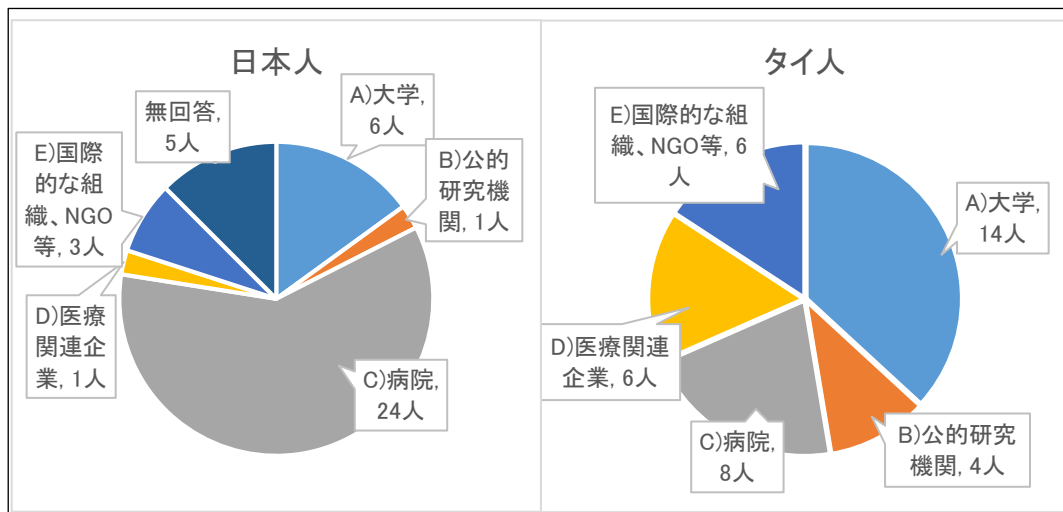
がんの治療に精通した外科分野で活躍できることのできる臨床医	21人
社会のニーズに即応しうる高度な研究能力を有する医科学者	15人
我が国やタイ国のみならず ASEAN 地域の医学・医療を牽引する指導者	7人
その他	7人
無回答	3人

(5) 将来希望する就職先

回答者が将来希望する就職先については、「病院」が32人、「大学」が20人と多く、次いで「国際的な組織、NGO等」が9人、「公的研究機関」が5人、「医療関連企業」が7人、そのほかクリニックや開業医との回答があった(図4)。

本専攻は、日本やタイ王国の大学等で臨床医・医科学者・指導者として若手医師を牽引し、ASEAN 地域で広く活躍することができる高度専門医療人材を養成することを目的としており、本調査対象者のニーズに合致していると考えられる。

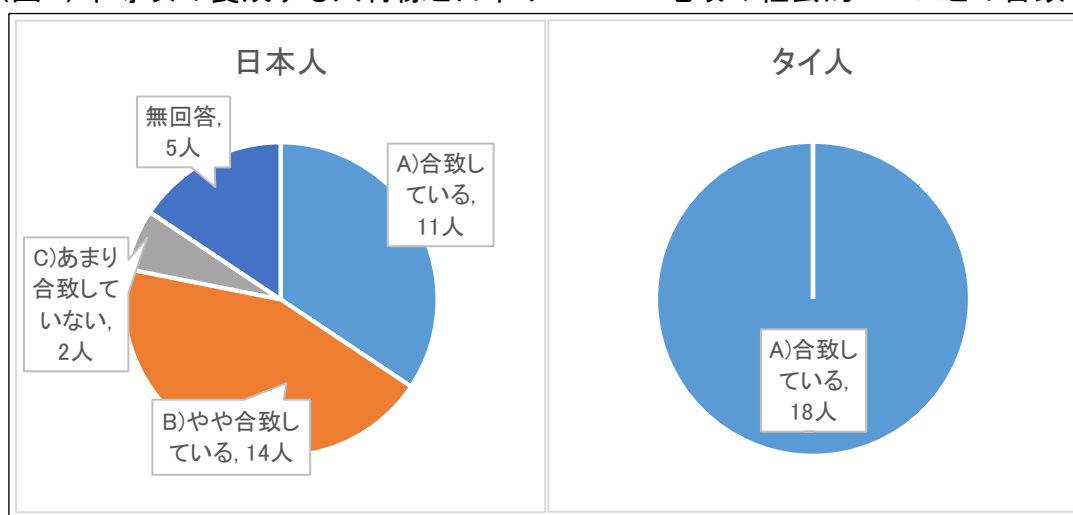
(図4) アンケート回答者の将来の希望就職先(複数選択可能)



(6) 本専攻の養成する人材像と日本や ASEAN 地域の社会的ニーズとの合致

「合致している」が 29 人、「やや合致している」が 14 人となり(図5)、本専攻の養成する人材像が日本や ASEAN 地域の社会的ニーズに合致していることがアンケート回答から確認できる。

(図5) 本専攻の養成する人材像と日本や ASEAN 地域の社会的ニーズとの合致



自由記述欄では、「合致している」または「やや合致している」を選択した理由として以下のようなもの挙げられた。

- ・以前から本学とタイ王国とは深いかわりがあり、これをさらに発展させるものと思っています。
- ・先進国と発展途上国の医療、研究を兼ねることができる為。
- ・現地での医療を実体験として学べるのであれば上記のニーズに答えられる可能性がある一方で4年間のプログラムというのは長い印象もある。
- ・日本のみならず外国の医療を学ぶことで日本国内以外のニーズがどのようなものかを理解する良い機会となり得る。
- ・目指しているものが少し違う。
- ・参加する人数次第。
- ・国際性豊かな医療人としての素養を身に付けることができると思われるため。実際に文化と言語の異なる二つの大学で学位をとれるのは大きなメリットである。
- ・先進国といわれる日本と、発展途上国といわれるタイの医療、文化等を学ぶことは国際的な社会ニーズに合致する。

このように本専攻は、養成する人材像と社会的ニーズに十分合致していると考えられる。アンケート自由回答には、本専攻に関する更なる参考情報やモデルケースを求める声もあったことから、設置認可を受けた場合は、両大学が協力して積極的に本専攻の魅力をPRすることを予定している。

ウ. 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、両大学における授業料、入学料及び検定料等の設定水準の差を考慮し、両大学が協議のうえ決定する。なお、授業料、入学料及び検定料等は学生が入学手続きをした大学でのみ徴収し、連携大学では徴収しないこととする。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

本専攻を設置するにあたり、アドミッション・ポリシーに適う質の高い学生を確保するための取組として、本学とマヒドン大学は以下の取組を実施した。

1. 第1回事前アンケート調査

2018年1月にマヒドン大学シリラート病院医学部内に設置した本学サテライトオフィスにてマヒドン大学の関係者、外科系教員、若手医師等に対し本学の研究、教育活動の実際、及び構想段階の本専攻の紹介を行い、アンケート調査を実施した。その結果、65人から回答があり、9割以上が本専攻に興味・関心があると回答した。

2. 第2回事前アンケート調査

2018年12月にマヒドン大学シリラート病院医学部にて本学の研究、教育活動の実際、及び本専攻の紹介を行い、アンケート調査を実施した。本調査の結果は本学生確保の見通し等を記載した書類「イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」で述べたとおりである。

3. マヒドン大学での講演によるPR

本学外科系専門分野、及び外科系関連医科学分野の教員が本学の研究及び本専攻の概要について、2018年6月にマヒドン大学にて講演を行ったところ、200名を超える学生、若手医師、教員の参加があり、本専攻への高い興味・関心があることがうかがえた。

引き続き、以下の取組も行う予定である。

1. 学生への経済的支援策の継続検討

本学及びマヒドン大学からの経済的支援策としては以下を計画しているが、今後も引き続き両大学にて学生支援の拡充について検討する。

本学:

- ・ 奨学金制度の整備
- ・ 日本学生支援機構の海外留学支援制度等の活用
- ・ 学生寮の居室提供

マヒドン大学:

- ・ 奨学金の支給
(マヒドン大学で入学手続きをした学生を対象に、本専攻修了後、シリラート病院医学部のスタッフとなることを条件に各年度 2 名程度を対象として支給する)

2. 学会会場への入学相談ブースの出展による PR

2019 年 8 月にはタイ王国の医学部を有する主たる大学が一同に会するがん診療・がん研究についての学会 (Princess Churabhone International Oncology Conference) の場において、本専攻の入学相談ブースを設置し出願勧奨を行う。この他にも、国内外の外科学会等において、本専攻の教育研究活動について紹介、認知度を高めていく予定である。

3. 広報活動

両大学のホームページをはじめとする多くの媒体を活用し、本専攻の構想・魅力について内外の学生等に積極的に周知・広報を行うほか、外科学を中心とした関連教育研究分野の教員等の人的ネットワークも活用し周知・広報を行う。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

本学及びマヒドン大学は、「基礎医学と臨床医学の両者を俯瞰し、国際的な研究や臨床を推奨することができるリーダーシップに富む高度専門医療人材の養成」という共通の目的のもと、超高齢社会に対応した疾病、特にがん治療のような集学的治

療に携わる、次のような高度専門医療人材の養成を目指す。

1) がん治療に精通した外科学分野で活躍することのできる臨床医

両大学において高度な診断技術及び低侵襲外科治療技術を学び、低侵襲医療を強力に推進することができる医師を養成する。また疾患の分布や背景の異なる両国の多くの症例を講義や演習を通じて学び、両国において多くの多様な症例に接する経験をもつことにより、臨床医としての研鑽を積み、医療の多様性への対応を実現できる。

2) 社会のニーズに即応しうる高度な研究能力を有する医科学者

研究手法や外科関連医科学分野の講義・演習を通じて問題発見及び問題解決のための手法を学び、自ら研究を進めることによりリサーチマインドを醸成する。これにより、自立した研究者としての基盤を形成できるとともに、超高齢社会の課題である、がんに対応できる人材の育成を行う。さらに、本専攻で学位を取得後、研究成果を発展させ、国際共同研究を牽引するリーダーとなる医科学者を養成する。これにより日本及びタイ王国のみならず広く ASEAN 地域全体に波及することができる。

3) 我が国やタイ王国のみならず ASEAN 地域の医学・医療を牽引する指導者

背景の異なる両大学による多角的な視点を持った授業や研究指導を受けることにより、幅広い専門知識をもち、現在の医療の問題点を国際的視点から俯瞰することができる。そして、医学・医療分野の橋渡し研究や、将来必要となる医療政策の推進等、それぞれの国において指導的立場となり、その後の人材育成を推進することができる。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

知識基盤社会(変化が激しく、常に未知の課題に対応することが求められる社会)の到来や、グローバル化の進展により、世界が優れた知恵で競い合う今日、グローバルに活動する企業や大学、研究機関等では、国籍を問わず優れた人材の獲得競争が激化しており、世界の研究・ビジネスの場では、高度な専門性に裏付けられた資質能力の証しとして博士号を保有している人材で、専門分化した膨大な知識の全体を俯瞰しながら、イノベーションにより社会に新たな価値を創造し、人類社会が直面する課題を解決に導くために、国際社会でリーダーシップを発揮する高度な人材が不可欠となっている。

このような国際競争力強化のため、優れた資質能力を備えた博士人材を戦略的に輩出していくことを目的に、欧米やアジア諸国等では、体系的な教育を展開する組織的な教育・研究指導体制を備え、質の保証された博士課程教育の飛躍的な充実が急務である。

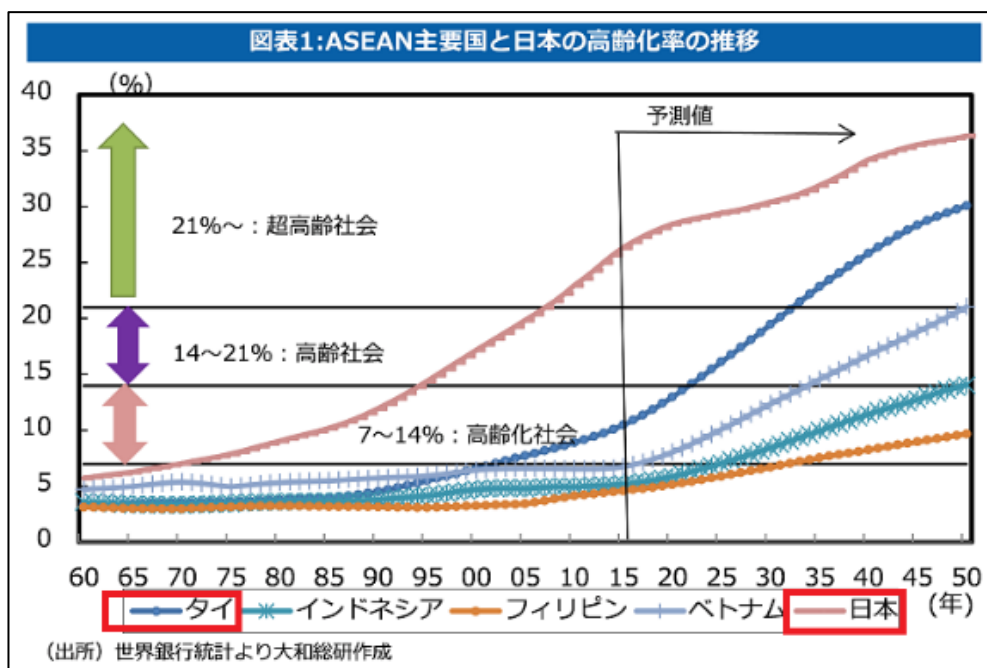
医療の分野に目を向けると、2015年9月の国連サミットにておいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で2016年から2030年までの国際目標として「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」が掲げられ、保健医療はSDGsの主要な目標の一つとして掲げられている。国際社会全体が「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」ことを目指すこととなっている。

日本及びASEAN地域に焦点を当てると、両国ともに急速な高齢化に伴う疾病構造の変化を受けて、悪性新生物(がん)や生活習慣病患者が増加しており、がん治療のような集学的治療に携わる専門家、特にそのリーダーとなる高度専門医療人の育成も求められている。さらに、医学・医療のグローバル化により多様な医療情報、医療機器、医療技術等が生まれており、先端技術を取り入れ適合・改良していくための研究開発を行う国際性豊かな人材が数多く必要となっている(※1~3)。これらの問題の解決に向けて、日本では「国際医療展開推進事業」を掲げ、医療技術や健康維持のノウハウを海外の国々に展開することを目指しており、タイ王国政府と「医療協力に関するプレリリース」を公表し、さらに「保健・医療分野における協力に関する覚書」を締結するなど、協力関係を強化していくこととしている。

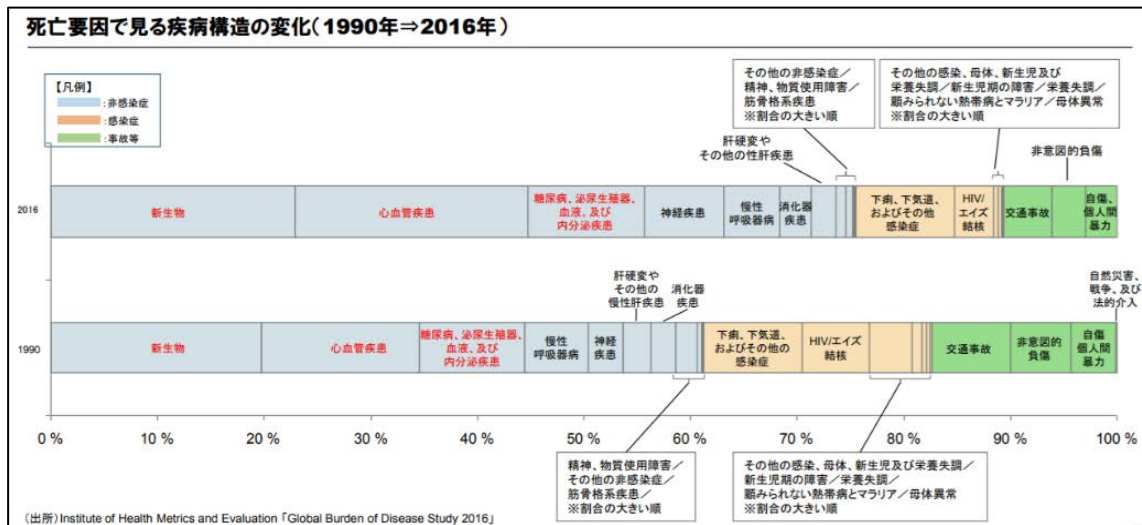
上述のように、世界、特に日本及びASEAN地域においては、医療ニーズや医療技術などの著しい発展に対応することができる国際社会でリーダーシップを発揮する高度な人材、集学的治療に携わる専門家のリーダーとなる高度専門医療人、研究開発を行う国際性豊かな医療人が必要となっており、医療系大学院には、生涯に渡る医療人のキャリア形成の中核的な役割を果たすことが求められている。

(参考:「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～答申(H23.1.31 中央教育審議会)」)

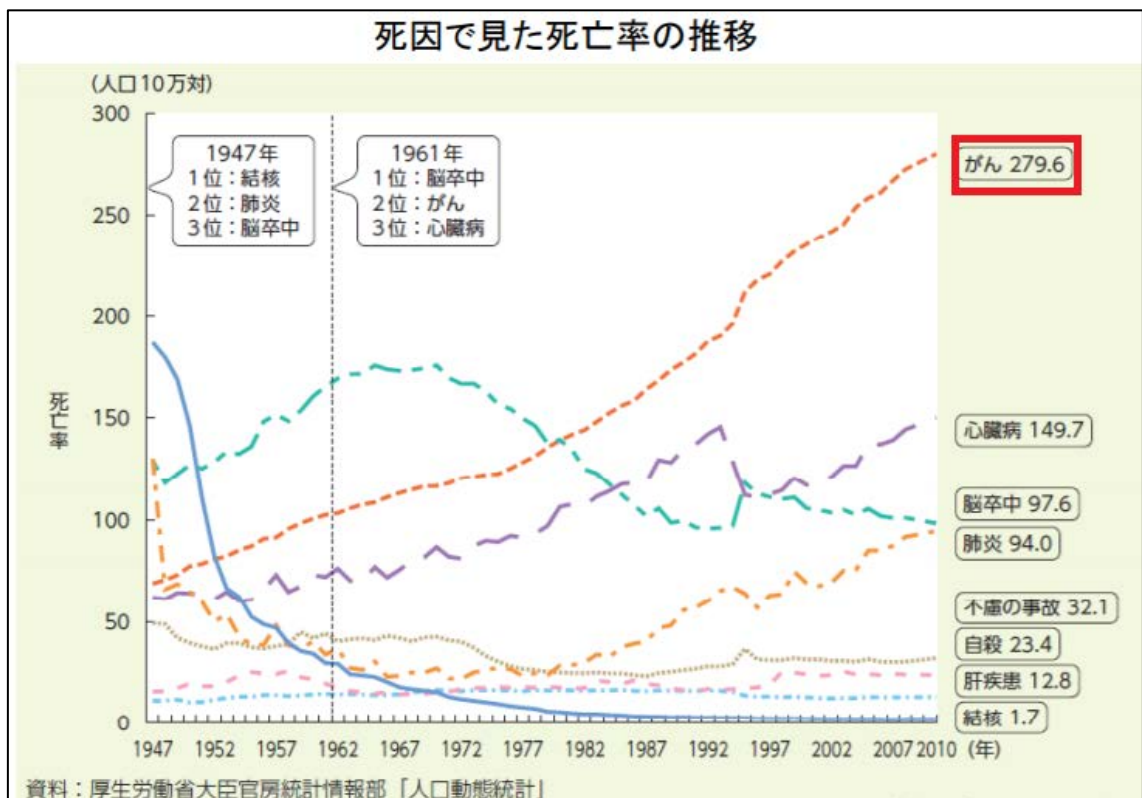
※1 ASEAN及び日本での急速な高齢化



※2 タイにおける疾病構造の変化(新生物及び心血管疾患の増加)



※3 日本における疾病構造の変化(がんの急増)



【社会的な人材需要を調査するためのアンケート】

定員充足の見込みについて調査するアンケートの実施時期と同時期である 2018 年 12 月から 1 月にかけて、本学及びマヒドン大学の外科分野において、博士号を取得済みの教員や博士課程学生を対象としたアンケート調査を行い、43 人(日本では 41 人、タイでは 2 人)から回答を得た。

(1) 本専攻を後輩や同僚の医師に勧めるか

日本人は 11 人が「勧める」、13 人が「どちらかといえば勧める」と回答している。タイ人回答者は全員「勧める」と回答している。

(2) 本専攻を修了した医師と将来一緒に働きたいか

日本では 18 人が「働きたい」、12 人が「どちらかといえば働きたい」という回答であった。タイの回答者は全員が「働きたい」と回答した。本専攻の養成する人材が、医療現場で求められていると考えられる。

以上のように、日本及びタイ王国における人材需要の動向並びにアンケート調査の結果からは、本専攻の養成する人材像(がん治療のような集学的治療に携わる専門家、特にそのリーダーとなる高度医療人のさらなる育成や医療ニーズの多様化に対応しうる国際性豊かな高度医療人材の育成、指導的立場として臨床・研究をともに推進していくことのできる人材の養成)は日本や ASEAN 地域の社会的ニーズに十分に合致しているものと考えられる。

以上

学生の確保の見通し等を記載した書類
資 料 目 次

資料 1 : アンケート調査

資料 2 : 本専攻の構想概要

資料 3 : アンケート回答

アンケート



東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻

このアンケートは、東京医科歯科大学とマヒドン大学が構想するジョイント・ディグリー・プログラムをより良いものとするために、皆様からのご意見を頂戴するものです。
添付の概要をお読みいただいたうえで、率直なご意見をご記入ください。

Q1. あなたの所属と身分を教えてください。

所属機関	<input type="checkbox"/> 東京医科歯科大学 <input type="checkbox"/> その他 (ご記入ください: _____)
身分	<input type="checkbox"/> 博士課程学生 <input type="checkbox"/> レジデント <input type="checkbox"/> フェロー <input type="checkbox"/> 教員 (博士号保持者) <input type="checkbox"/> 教員(非博士号保持者) <input type="checkbox"/> その他 (ご記入ください: _____)

Q2. あなたは本プログラムに興味・関心がありますか？

- A) 興味・関心がある
- B) 少し興味・関心がある
- C) あまり興味・関心がない
- D) 興味・関心がない

Q3-1. あなたは本プログラムに出願したいですか？

- A) 出願したい
- B) 出願を検討したい
- C) 出願したくない

Q3-2. Q3-1 で A または B の回答を選択した場合は、その理由を以下から選んでください。

- A) カリキュラムに魅力を感じるから
- B) 2つの大学の学位が取得できるから
- C) 2つの大学の強みを活用しているから
- D) プログラムを修了すれば自身のキャリアに役立つから
- E) その他 (ご記入ください: _____)

Q4. あなたのキャリアゴールは何ですか？

- A) がんの治療に精通した外科学分野で活躍することのできる臨床医
- B) 社会のニーズに即応しうる高度な研究能力を有する医科学者
- C) 我が国やタイ国のみならず ASEAN 地域の医学・医療を牽引する指導者
- D) その他 (ご記入ください: _____)

Q5. あなたは将来どのような職場で働きたいですか？(複数選択可)

- A) 大学
 B) 公的研究機関
 C) 病院
 D) 医療関連企業
 E) 国際的な組織、NGO 等
 F) その他 (ご記入ください:)

Q6-1. あなたは、本プログラムの養成する人材像が日本や ASEAN 地域の社会的ニーズに合致していると思いますか？

- A) 合致している
 B) やや合致している
 C) あまり合致していない
 D) 合致していない

※社会的ニーズ：

日本及び ASEAN 地域では、急速な高齢化に伴う疾病構造の変化や医療のグローバル化を受けて、医療ニーズの多様化に対応する国際性豊かな高度医療人材の育成が求められている。

※養成する人材像：

- ・がんの治療に精通した外科学分野で活躍することのできる臨床医
- ・社会のニーズに即応する高度な研究能力を有する医科学者
- ・我が国やタイ国のみならず ASEAN 地域の医学・医療を牽引する指導者

Q6-2. Q6-1 の回答の理由を記述してください。

Q7. 本プログラムについて意見や気になる事があれば記述してください。

<以下教員のみ対象>

Q8. 本プログラムを後輩や同僚の医師に勧めますか？

- A) 勧める
 B) どちらかといえば勧める
 C) どちらかといえば勧めない
 D) 勧めない

Q9. 本プログラムを修了した医師と将来一緒に働きたいですか？

- A) 働きたい
 B) どちらかといえば働きたい
 C) どちらかといえば働きたくない
 D) 働きたくない

ご協力ありがとうございました。

東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻 (ジョイント・ディグリー・プログラム)

※アンケートにご回答いただく前に必ずお読みください。

【理念】

日本及びASEAN地域における社会ニーズに対応するため、マヒドン大学と東京医科歯科大学は以下のような外科分野の高度医療専門人材を養成する。

- がんの治療に精通した外科学分野で活躍することのできる臨床医
- 社会のニーズに即応しうる高度な研究能力を有する医科学者
- 日本、タイのみならずASEAN地域の医学・医療を牽引する指導者

【概要】

学位： 博士（医学）
 教育研究分野： 外科学
 （総合外科学、消化管外科学、上部消化管外科学、下部消化管外科学、肝胆膵外科学、血管外科学、頭頸部・乳腺外科学、泌尿器外科学）
 使用言語： 英語
 修業年限： 4年
 必要単位： 72単位以上
 入学時期： 4月
 開設年度： 2020年4月

マヒドン大学 研究/臨床担当教員
 東京医科歯科大学 研究/臨床担当教員



【メリット】

- 日本及びタイ特有の症例を学ぶことができる
- 基礎から臨床の橋渡し研究及び臨床から基礎への逆・橋渡し研究が実践できる
- 4年間で2つの大学の学位が取得できる
- 2つの大学の医療技術やノウハウを吸収できる
- 国際共同研究において様々な研究手法が修得できる
- 国際的なネットワークが構築でき、将来的に国際的な活躍が見込める

【出願資格】

- ① 外科医、または医師免許を保有する教員
- ② 医学部をGPA3.0以上で卒業
- ③ 一定程度の英語力

【選抜方法】

書類選考、筆記試験、面接試験により選抜
【入学定員】3名

入学



1年次

2年次

3年次

4年次



修了

4年以上在学し、授業科目を72単位以上修得し、学位論文の審査及び試験に合格



東京医科歯科大学とマヒドン大学の連名による学位記が交付される

※本構想は「申請(認可)」前の内容であり、今後変更することがあります。

カリキュラム概要

Thesis形式の論文、及び国際的な学術雑誌に掲載された論文により審査を行う。

共同学位記の授与

【学生のモビリティ】
パターン1 パターン2

4年次	第8semester	相手大学	相手大学	相手大学への滞在は第3から第7semesterの間とする	臨床基幹科目Ⅱ	滞在国内の臨床担当教員の診療科で、臨床能力の維持・発展につなげる	研究実践と論文作成 (48) TMDU 24単位 MU 24単位	⑤
	第7semester							④
3年次	第6semester	相手大学	相手大学	相手大学への滞在は第3から第7semesterの間とする	臨床基幹科目Ⅱ	相手国で半年～2年実験・研究を行い両国教員による指導を受ける	研究実践と論文作成 (48) TMDU 24単位 MU 24単位	④
	第5semester							③
2年次	第4semester	自大学	自大学	相手大学への滞在は第3から第7semesterの間とする	共同開設科目 5単位	がん医療専門科目 (5) TMDU 2単位以上 MU 2単位以上	論文企画審査	③
	第3semester							②
1年次	第2semester	自大学	自大学	相手大学への滞在は第3から第7semesterの間とする	臨床基幹科目Ⅰ TMDU 2単位 または MU 2単位	臨床統計・情報科学 関連専門科目 (4) TMDU または MU 2～4単位	研究基幹科目 (8) -外科学 (4～8単位) -外科関連医科学 (0～4単位) TMDU または MU 8単位	②
	第1semester							①

修了要件単位: 72単位
各semester最大取得単位数: 15単位

入学までに臨床担当教員(主・副)ならびに研究担当教員(主・副)を決める。
学生の主指導教員は主臨床担当教員となる。

両大学による入学者選抜試験

選抜方法:
書類選考、筆記試験、合同面接

①～⑤に開催されるプログラム運営委員会にて
学生の単位、成績管理を行う

①定員充足の見込みについて調査するアンケート（日本人回答）

Q1. あなたの所属と身分を教えてください（所属機関）

TMDU	14
その他	17
無回答	1

【その他欄】

武蔵野赤十字病院2、桜ヶ丘中央病院、病院、公的病院、蓮田病院、土浦協同病院、中野総合HP、関連病院、関連総合病院、草加市立病院、未記入6

Q1. あなたの所属と身分を教えてください（身分）

レジデント	10
教員（博士号非取得者）	2
その他	14
無回答	6

【その他欄】

副院長、医師、部長、管理医長、研修医、未記入9

Q2. あなたは本プログラムに興味・関心がありますか？

A) 興味・関心がある	8
B) 少し興味・関心がある	14
C) あまり興味・関心がない	6
D) 興味・関心がない	4
無回答	0

Q3-1. あなたは本プログラムに出願したいですか？

A) 出願したい	1
B) 出願を検討したい	12
C) 出願したくない	18
無回答	1

Q3-2. Q3-1でAまたはBの回答を選択した場合はその理由を以下から選んでください。

A) カリキュラムに魅力を感じるから	4
B) 2つの大学の学位が取得できるから	5
C) 2つの大学の強みを活用しているから	4
D) プログラムを修了すれば自身のキャリアに役立つから	2
E) その他	0
無回答	19

※複数選択した者がいた

Q4. あなたのキャリアゴールは何ですか？

A) がんの治療に精通した外科分野で活躍できることのできる臨床医	19
B) 社会のニーズに即応しうる高度な研究能力を有する医科学者	3
C) 我が国やタイ国のみならずASEAN地域の医学・医療を牽引する指導者	3
D) その他	7
無回答	3

※複数選択した者がいた

- ・ 臨床分野で貢献できる医師
- ・ 日本、タイ
- ・ 未記入5

Q5. あなたは将来どのような職場で働きたいですか？（複数選択可能）

A) 大学	6
B) 公的研究機関	1
C) 病院	24
D) 医療関連企業	1
E) 国際的な組織、NGO等	3
F) その他	0
無回答	5

Q6-1. あなたは、本プログラムの養成する人材が日本やASEAN地域の社会ニーズに合致していると思いますか？

A) 合致している	11
B) やや合致している	14
C) あまり合致していない	2
D) 合致していない	0
無回答	5

Q6-2. Q6-1の回答の理由を記述してください。

記載有り	8
無回答	24

- ・ 以前から本学とタイ王国とは深いかわりがあり、これをさらに発展させるものと思っています。
- ・ 先進国と発展途上国の医療、研究を兼ねることができる為
- ・ 現地での医療を実体験として学べるのであれば上記のニーズに答えられる可能性がある一方で4年間のプログラムというのは長い印象もある
- ・ 日本のみならず外国の医療を学ぶことで日本国内以外のニーズがどのようなものかを理解する良い機会となり得る。
- ・ 目指しているものが少し違う
- ・ 参加する人数次第
- ・ 国際性豊かな医療人としての素養を身に着けることができると思われるため。実際に文化と言語の異なる二つの大学で学位をとれるのは大きなメリットである。
- ・ 先進国といわれる日本と、発展途上国といわれるタイの医療、文化等を学ぶことは国際的な社会ニーズに合致する。

Q7. 本プログラムについて意見や気になることがあれば記述してください。

記載有り	3
無回答	29

- ・ 本学がアジアで、世界で活躍されることを祈っています。
- ・ 先輩など、モデルとなるような先行ケースがあればわかりやすいと思います。
- ・ マヒドン大学の医師・教師が英語で授業をするのか、タイ語で授業を受けるのは厳しいと感じる。

Q8. 本プログラムを後輩や同僚の医師に勧めますか？

A) 勧める	0
B) どちらかといえば勧める	5
C) どちらかといえば勧めない	2
D) 勧めない	0
無回答	25

Q9. 本プログラムを修了した医師と将来一緒に働きたいですか？

A) 働きたい	2
B) どちらかといえば働きたい	6
C) どちらかといえば働きたくない	0
D) 働きたくない	0
無回答	24

②定員充足の見込みについて調査するアンケート（タイ人回答）

Q1. あなたの所属と身分を教えてください（所属機関）

MU	18
----	----

Q1. あなたの所属と身分を教えてください（身分）

修士課程学生	4
学部学生	4
レジデント	6
フェロー	2
教員（博士号非取得者）	2

Q2. あなたは本プログラムに興味・関心がありますか？

A) 興味・関心がある	18
B) 少し興味・関心がある	0
C) あまり興味・関心がない	0
D) 興味・関心がない	0
無回答	0

Q3-1. あなたは本プログラムに出願したいですか？

A) 出願したい	10
B) 出願を検討したい	8
C) 出願したくない	0
無回答	0

Q3-2. Q3-1でAまたはBの回答を選択した場合はその理由を以下から選んでください。

A) カリキュラムに魅力を感じるから	6
B) 2つの大学の学位が取得できるから	4
C) 2つの大学の強みを活用しているから	8
D) プログラムを修了すれば自身のキャリアに役立つから	0
E) その他	0
無回答	0

Q4. あなたのキャリアゴールは何ですか？

A) がんの治療に精通した外科分野で活躍できることのできる臨床医	2
B) 社会のニーズに即応しうる高度な研究能力を有する医科学者	12
C) 我が国やタイ国のみならずASEAN地域の医学・医療を牽引する指導者	4
D) その他	0
無回答	0

Q5. あなたは将来どのような職場で働きたいですか？（複数選択可能）

A) 大学	14
B) 公的研究機関	4
C) 病院	8
D) 医療関連企業	6
E) 国際的な組織、NGO等	6
F) その他	0
無回答	0

Q6-1. あなたは、本プログラムの養成する人材が日本やASEAN地域の社会ニーズに合致していると思いますか？

A) 合致している	18
B) やや合致している	0
C) あまり合致していない	0
D) 合致していない	0
無回答	0

Q6-2. Q6-1の回答の理由を記述してください。

記載有り	18
無回答	0

Q7. 本プログラムについて意見や気になることがあれば記述してください。

記載有り	18
無回答	0

Q8. 本プログラムを後輩や同僚の医師に勧めますか？

A) 勧める	2
B) どちらかといえば勧める	0
C) どちらかといえば勧めない	0
D) 勧めない	0
無回答	0

Q9. 本プログラムを修了した医師と将来一緒に働きたいですか？

A) 働きたい	2
B) どちらかといえば働きたい	0
C) どちらかといえば働きたくない	0
D) 働きたくない	0
無回答	0

③社会的な人材需要を調査するためのアンケート（日本人回答）

Q1. あなたの所属と身分を教えてください（所属機関）

TMDU	37
その他	4
無回答	0

【その他欄】

埼玉県立がんセンター、埼玉医科大学、未記入2

Q1. あなたの所属と身分を教えてください（身分）

博士課程学生	15
教員（博士号取得者）	26

Q2. あなたは本プログラムに興味・関心がありますか？

A) 興味・関心がある	10
B) 少し興味・関心がある	18
C) あまり興味・関心がない	10
D) 興味・関心がない	3
無回答	0

Q3-1. あなたは本プログラムに出願したいですか？

A) 出願したい	8
B) 出願を検討したい	6
C) 出願したくない	26
無回答	1

Q3-2. Q3-1でAまたはBの回答を選択した場合はその理由を以下から選んでください。

A) カリキュラムに魅力を感じるから	7
B) 2つの大学の学位が取得できるから	3
C) 2つの大学の強みを活用しているから	4
D) プログラムを修了すれば自身のキャリアに役立つから	4
E) その他	3
無回答	22

※複数選択した者がいた

【その他欄】

- ・ 視野を広げる
- ・ マヒドン大学は未来があるから

Q4. あなたのキャリアゴールは何ですか？

A) がんの治療に精通した外科分野で活躍できることのできる臨床医	29
B) 社会のニーズに即応しうる高度な研究能力を有する医科学者	3
C) 我が国やタイ国のみならずASEAN地域の医学・医療を牽引する指導者	4
D) その他	4
無回答	2

※複数選択した者がいた

【その他欄】

- ・ A、Bの両立
- ・ 専門分野で活躍ができる臨床医
- ・ 包括的がん診療を担当する臨床医
- ・ 未記入1

Q5. あなたは将来どのような職場で働きたいですか？（複数選択可能）

A) 大学	22
B) 公的研究機関	3
C) 病院	28
D) 医療関連企業	0
E) 国際的な組織、NGO等	1
F) その他	1
無回答	2

【その他欄】

開業医

Q6-1. あなたは、本プログラムの養成する人材が日本やASEAN地域の社会ニーズに合致していると思いますか？

A) 合致している	15
B) やや合致している	19
C) あまり合致していない	3
D) 合致していない	0
無回答	4

Q6-2. Q6-1の回答の理由を記述してください。

記載有り	12
無回答	29

- ・ 2大学の特徴が相互補完的。
- ・ 日本の医療は国際化が必要と実感している。
- ・ 本プログラムの養成する人材像は世界的に活躍できる条件をそなえていると思われるため。
- ・ 優秀なリーダーの養成はどの社会でも求められると思います。
- ・ ASEAN地域の実情が分かる人材になると思うからです。
- ・ まだ判断しかねます。
- ・ ASEANの日本化は数年先になる。
- ・ 国際的視野がもてる。
- ・ 日本とタイ双方で研究できるため。
- ・ 日本とタイは経済的な結びつきが強いため、医療に関しても協力関係が築きやすく、お互いにメリットがある可能性があるから。
- ・ 4年間で、2-3年のタイ生活でどこまで国際的経験を積めるかは個人の能力も大きいと思います。
- ・ 日本→タイで短期留学の意義があまりないと思われる為。

Q7. 本プログラムについて意見や気になることがあれば記述してください。

記載有り	7
無回答	34

- ・ タイでの待遇（立場、医療行為の可否など）はどうなっていますか。
- ・ ぜひやるといいと思います。
- ・ 生活面での援助の有無など
- ・ タイの外科治療の実際
- ・ 収入面のサポートはあるのでしょうか？

Q8. 本プログラムを後輩や同僚の医師に勧めますか？

A) 勧める	11
B) どちらかといえば勧める	13
C) どちらかといえば勧めない	7
D) 勧めない	1
無回答	9

Q9. 本プログラムを修了した医師と将来一緒に働きたいですか？

A) 働きたい	18
B) どちらかといえば働きたい	12
C) どちらかといえば働きたくない	2
D) 働きたくない	0
無回答	9

④社会的な人材需要を調査するためのアンケート（タイ人回答）

Q1. あなたの所属と身分を教えてください（所属機関）

TMDU	0
MU	2
その他	0
無回答	0

Q1. あなたの所属と身分を教えてください（身分）

博士課程学生	2
教員（博士号取得者）	0

Q2. あなたは本プログラムに興味・関心がありますか？

A) 興味・関心がある	2
B) 少し興味・関心がある	0
C) あまり興味・関心がない	0
D) 興味・関心がない	0
無回答	0

Q3-1. あなたは本プログラムに出願したいですか？

A) 出願したい	2
B) 出願を検討したい	0
C) 出願したくない	0
無回答	0

Q3-2. Q3-1でAまたはBの回答を選択した場合はその理由を以下から選んでください。

A) カリキュラムに魅力を感じるから	0
B) 2つの大学の学位が取得できるから	2
C) 2つの大学の強みを活用しているから	0
D) プログラムを修了すれば自身のキャリアに役立つから	0
E) その他	0
無回答	0

Q4. あなたのキャリアゴールは何ですか？

A) がんの治療に精通した外科分野で活躍できることのできる臨床医	0
B) 社会のニーズに即応しうる高度な研究能力を有する医科学者	2
C) 我が国やタイ国のみならずASEAN地域の医学・医療を牽引する指導者	0
D) その他	0
無回答	0

Q5. あなたは将来どのような職場で働きたいですか？（複数選択可能）

A) 大学	2
B) 公的研究機関	0
C) 病院	0
D) 医療関連企業	0
E) 国際的な組織、NGO等	2
F) その他	0
無回答	0

Q6-1. あなたは、本プログラムの養成する人材が日本やASEAN地域の社会ニーズに合致していると思いますか？

A) 合致している	2
B) やや合致している	0
C) あまり合致していない	0
D) 合致していない	0
無回答	0

Q6-2. Q6-1の回答の理由を記述してください。

記載有り	2
無回答	0

Q7. 本プログラムについて意見や気になることがあれば記述してください。

記載有り	2
無回答	0

Q8. 本プログラムを後輩や同僚の医師に勧めますか？

A) 勧める	2
B) どちらかといえば勧める	0
C) どちらかといえば勧めない	0
D) 勧めない	0
無回答	0

Q9. 本プログラムを修了した医師と将来一緒に働きたいですか？

A) 働きたい	2
B) どちらかといえば働きたい	0
C) どちらかといえば働きたくない	0
D) 働きたくない	0
無回答	0